

第3章 調査結果の解析・評価

3-1 調査結果の解析・評価

(1) 緑地機能の解析・評価の整理方法

緑地の解析・評価は、緑と水辺が本市において果たす役割を環境保全系統・レクリエーション系統・防災系統・景観構成系統の4つの系統に区分し行うとともに、本市の都市の構造や緑をめぐる社会動向などの諸条件を考慮して総合的な解析・評価を行います。

■4 系統別の評価

<p>○環境保全系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の骨格形成 ・優れた自然 ・掛川らしい歴史風土 ・生活環境保全 ・優良な農業地 ・動植物を守る緑 	<p>○レクリエーション系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然とのふれあいの場 ・身近なレクリエーション空間 ・広域的なレクリエーション空間 ・線的なレクリエーション空間 	<p>○防災系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然災害の抑制 ・人為災害の抑制 ・避難地としての機能 ・避難路としての機能 	<p>○景観構成系統</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛川の代表的な緑の景観 ・地区の良好な緑の景観 ・優れた景観の眺望点 ・ランドマークとなる緑 ・四季を感じる緑の景観
---	---	---	--



■問題点・課題の整理

<p>本市の総合的なまちづくりの観点からの課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①本市の緑と水辺の保全、創出、活用のあり方を示す総合的なビジョンとする ②文化の香り高い市域の形成に寄与する計画とする ③環境と共生したまちづくりに寄与する計画とする ④既存ストックを活用して緑を確保する ⑤市民・事業者・行政の協働による緑地保全、緑化のあり方を示す 	<p>現況の緑と水辺の構成要素に関する課題</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市街地の背後に広がる森林の保全と整備 ②遠州灘海岸沿いに広がる海岸防災林の保全と再生 ③市街地に接する水辺の保全と活用 ④農地の保全と活用 ⑤地域の個性を形成する緑地の保全・活用 ⑥新規公園に代わる緑地の確保 ⑦老朽化が進む既存公園の再整備 ⑧公共空間の緑化推進 ⑨民有地の緑化の促進
---	---

図 3-1-1 緑地の解析・評価フロー

解析・評価の視点（評価の着目点）は、4系統毎に以下のように設定します。

表 3-1-1 解析評価の視点

評価の視点		対象となる主な緑の種類	
環境保全系統	都市の骨格を形成する緑	<input type="checkbox"/> 山地・丘陵地 <input type="checkbox"/> 主要な河川 <input type="checkbox"/> 海岸	
	優れた自然	<input type="checkbox"/> 良好な植物群落 <input type="checkbox"/> 野生動物生息地	
	掛川らしい歴史風土を有する緑	<input type="checkbox"/> 史跡・名勝 <input type="checkbox"/> 天然記念物・保存樹林・保存樹木 <input type="checkbox"/> 歴史的な名残を残す緑 <input type="checkbox"/> 緑豊かな社寺境内樹林地	
	快適な生活環境に資する緑	<input type="checkbox"/> 都市公園 <input type="checkbox"/> 身近なオープンスペース <input type="checkbox"/> 緑豊かな社寺境内樹林地 <input type="checkbox"/> 街路樹、植栽を有する公共公益施設 <input type="checkbox"/> 民有地の生垣、植栽	
	優れた農林業地	<input type="checkbox"/> 水田・茶畑 <input type="checkbox"/> 樹林地	
	動植物を守る緑	<input type="checkbox"/> 貴重種の生息する緑、水辺 <input type="checkbox"/> 野生動物の移動経路となる緑・河川・海岸 <input type="checkbox"/> 自然を活かした公園緑地 <input type="checkbox"/> 海岸部の県立自然公園	
レクリエーション系統	自然とのふれあいの場となる緑	<input type="checkbox"/> キャンプ場・ハイキングコース等 <input type="checkbox"/> 主要な河川 <input type="checkbox"/> 自然を活かした公園 <input type="checkbox"/> 海洋性スポーツ・レクリエーション施設	
	身近なレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 住区基幹公園 <input type="checkbox"/> 良好なオープンスペース <input type="checkbox"/> 小中高等学校グラウンド <input type="checkbox"/> 社寺境内地	
	広域的なレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 都市基幹公園 <input type="checkbox"/> その他の公園 <input type="checkbox"/> 公園以外の交流施設	
	線的な緑のレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 主要な河川 <input type="checkbox"/> サイクリングコース・マラソンコース <input type="checkbox"/> 散策路	
防災系統	自然災害を抑制する緑	土砂災害	<input type="checkbox"/> 山地の樹林地 <input type="checkbox"/> 市街地周辺の樹林地
		水害	<input type="checkbox"/> 山地の樹林地 <input type="checkbox"/> 市街地周辺の水田・畑 <input type="checkbox"/> 調整池
		塩害・強風被害	<input type="checkbox"/> 海岸線沿い樹林地
		津波災害・高潮災害	<input type="checkbox"/> 海岸線沿い樹林地
	人為災害を抑制する緑	<input type="checkbox"/> 市街地内の一団の緑 <input type="checkbox"/> 市街地の河川・ため池 <input type="checkbox"/> 豊かな街路樹 <input type="checkbox"/> 工場等の緩衝緑地	
	避難地として機能する緑	<input type="checkbox"/> 避難地 <input type="checkbox"/> 都市公園 <input type="checkbox"/> 社寺境内樹林地	
	避難路として機能する緑	<input type="checkbox"/> 街路樹のある幹線道路 <input type="checkbox"/> 住宅の生垣	
景観構成系統	掛川の代表的な緑の景観	<input type="checkbox"/> 掛川の代表的な緑 <input type="checkbox"/> 掛川の代表的な水辺 <input type="checkbox"/> 掛川の代表的な農地	
	地区・住区レベルの良好な緑の景観	<input type="checkbox"/> 市の中心部の緑と水辺 <input type="checkbox"/> 地区・住区の良好な緑 <input type="checkbox"/> 地区・住区の水辺 <input type="checkbox"/> 地区・住区の歴史を表す緑	
	優れた景観の眺望点	<input type="checkbox"/> 眺望点となる山・山頂 <input type="checkbox"/> 眺望点となる公園	
	ランドマークとなる緑	<input type="checkbox"/> ランドマークとなる緑 <input type="checkbox"/> ランドマークとなる樹木	
	四季を感じる緑の景観	<input type="checkbox"/> 山地・丘陵地 <input type="checkbox"/> 都市公園の植栽地 <input type="checkbox"/> 寺社仏閣・史跡 <input type="checkbox"/> 公共公益施設の植栽地 <input type="checkbox"/> ため池、その他	

3-2 4 系統別の解析・評価

(1) 環境保全系統

環境保全系統としては、以下に示す6つの視点別に対象となる主な緑を抽出することで解析・評価を行います。

表 3-2-1 環境保全系統緑地における評価

	評価の視点	対象となる主な緑の種類	掛川市における緑
環境保全系統	都市の骨格を形成する緑	<input type="checkbox"/> 山地・丘陵地	<input type="checkbox"/> 八高山、大尾山、栗ヶ岳、小笠山
		<input type="checkbox"/> 主要な河川	<input type="checkbox"/> 逆川、原野谷川、垂木川、倉真川、弁財天川、西大谷川、東大谷川、菊川
		<input type="checkbox"/> 海岸	<input type="checkbox"/> 大浜海岸、大須賀海岸
	優れた自然	<input type="checkbox"/> 良好な植物群落	<input type="checkbox"/> 小笠山、三ツ峰、阿波々神社の社叢
		<input type="checkbox"/> 野生動物生息地	<input type="checkbox"/> 西之谷川周辺、大浜海岸、大須賀海岸など
	掛川らしい歴史風土を有する緑	<input type="checkbox"/> 史跡・名勝	<input type="checkbox"/> 掛川城、大日本報徳社、小夜の中山、高天神城跡、横須賀城跡
		<input type="checkbox"/> 天然記念物・保存樹林・保存樹木	<input type="checkbox"/> 顕光寺の鳥居スギ等の天然記念物 24ヶ所、保存樹林 14ヶ所、保存樹木 80ヶ所
		<input type="checkbox"/> 歴史的な名残を残す緑	<input type="checkbox"/> 東海道の松並木
		<input type="checkbox"/> 緑豊かな社寺境内樹林地	<input type="checkbox"/> 龍尾神社、神明宮等の社寺境内樹林地
	快適な生活環境に資する緑	<input type="checkbox"/> 都市公園 <input type="checkbox"/> 身近なオープンスペース	<input type="checkbox"/> 掛川城公園、大池公園、22世紀の丘公園等の都市公園
		<input type="checkbox"/> 緑豊かな社寺境内樹林地	<input type="checkbox"/> 龍尾神社、神明宮、三熊野神社等の社寺境内樹林地
		<input type="checkbox"/> 街路樹、植栽を有する公共公益施設	<input type="checkbox"/> 掛川駅南北広場、市庁舎、中東遠総合医療センター、小中高等学校グラウンド、街路樹
		<input type="checkbox"/> 民有地の生垣、植栽	<input type="checkbox"/> 住宅の生垣・植栽、工場敷地内の緑地
	優れた農林業地	<input type="checkbox"/> 水田・茶畑	<input type="checkbox"/> 農業振興地域農用地区域 <input type="checkbox"/> 市街地内農地 <input type="checkbox"/> 茶草場農法地
		<input type="checkbox"/> 樹林地	<input type="checkbox"/> 地域森林計画対象民有林、保安林
	動植物を守る緑	<input type="checkbox"/> 貴重種の生息する緑、水辺 <input type="checkbox"/> 野生動物の移動経路となる緑・河川・海岸	<input type="checkbox"/> 小笠山、三ツ峰、阿波々神社の社叢、ため池 <input type="checkbox"/> 西之谷川周辺、大浜海岸、大須賀海岸など
		<input type="checkbox"/> 自然を活かした公園緑地	<input type="checkbox"/> 大池公園、森林果樹公園
		<input type="checkbox"/> 海岸部の県立自然公園	<input type="checkbox"/> クロマツ樹林地、大浜海岸、大須賀海岸

対象となる主な緑の解析・評価

- 都市の骨格を形成する緑である大尾山・粟ヶ岳等の山地・丘陵地は、貴重な自然資源を有する特徴的な緑といえる。
- 樹林地の都市的土地利用への転換、利用価値の喪失により、管理が行きとどかず、荒廃した樹林地が多くなってきている。
- 丘陵地における土壌はやせ、常緑広葉樹林帯に属するが、広くアカマツ林が分布し、農地化、宅地化等の影響と相まって、常緑広葉樹林は、断片的に現れているにすぎない。

- 本市を流れる主な河川沿いは、良好な自然景観が残されており、生活環境にうるおいを与える緑となっている。

- 遠州灘に面する海岸とその周辺に広がる松林は、市南部の骨格を形成する緑・水辺であり、遠州地方特有の空っ風とともに貴重な自然資源となっている。
- 海岸浸食による砂浜の減少、海岸沿いの松林の立ち枯れ等により、海岸部の自然環境が悪化している。

- 小笠山をはじめとした山地・河川は、良好な植物群落や、注目すべき種(動物)の生息地となっている。
- 遠州灘の砂浜海岸は、地域特有の地形として、アカウミガメなどの希少生物種の保全等の面で貴重である。

- 掛川城をはじめとした史跡・名勝や社寺境内樹林地は、市内各所でみられる。

- 本市は、天然記念物・保存樹林・保存樹を数多く有しており、貴重な自然資源となっている。

- 旧掛川市の市街地内には計画的に公園が配置され、緑のオープンスペースとして重要なものとなっている。
- 大東地区や大須賀地区では、歴史的な街並みを形成している一方で、身近に利用できる小規模な公園(住区基幹公園)がほとんどなく、整備が遅れている。

- 市内全域に歴史的・文化的な社寺境内地が残され、緑のオープンスペースとして重要なものとなっている。
- 街路樹による緑化が進められており、市街地にうるおいを提供している。
- 公共施設において、積極的な緑化が進められている。
- エコポリス工業団地をはじめとする工場にも多くの緑が配置されており、快適な環境が確保されている。
- 工業団地内の企業により、工場敷地内の積極的な緑化が進められている。

- 本市の緑の約2割を占める農業地は、掛川らしさを見せる緑であるとともに、本市の産業を支える重要な緑となっている。
- 山地・丘陵地での茶栽培、平野での稲作、砂州での畑作等、地区の地理的・気候的特性に適した農地が広がっている。
- 茶園の畝間にススキやササを主とする刈敷きを行う伝統的農法である茶草場農法により、生物多様性の維持につながっている。

- 市街地縁辺部においては、都市的土地利用が広がりつつある。
- 後継者不足や農業従事者の高齢化により、耕作放棄地が増加している。
- 森林の維持管理体制も十分でなく、森林が荒廃する傾向にある。

- 本市では、市街地内においても自然度の高い緑地帯が多く残っており、市民生活の中に自然とふれあう環境がとけ込んでいる。また、ため池・谷田文化の発祥地として自然の恵みを巧みに利用し、環境との共存共生を自然に守ってきた。
- 山裾周辺において都市的土地利用への転換が進みつつあり、自然形態の循環機能が乱されつつある。
- 河川等のコンクリート護岸の整備が進み、生態系への影響が懸念される。

- 自然の地形や植物をうまく活用している公園がある。

- 遠州灘に面する海岸は、アカウミガメの産卵地として重要な自然環境である。
- 海岸浸食や防風林の腐食が進んでいる。

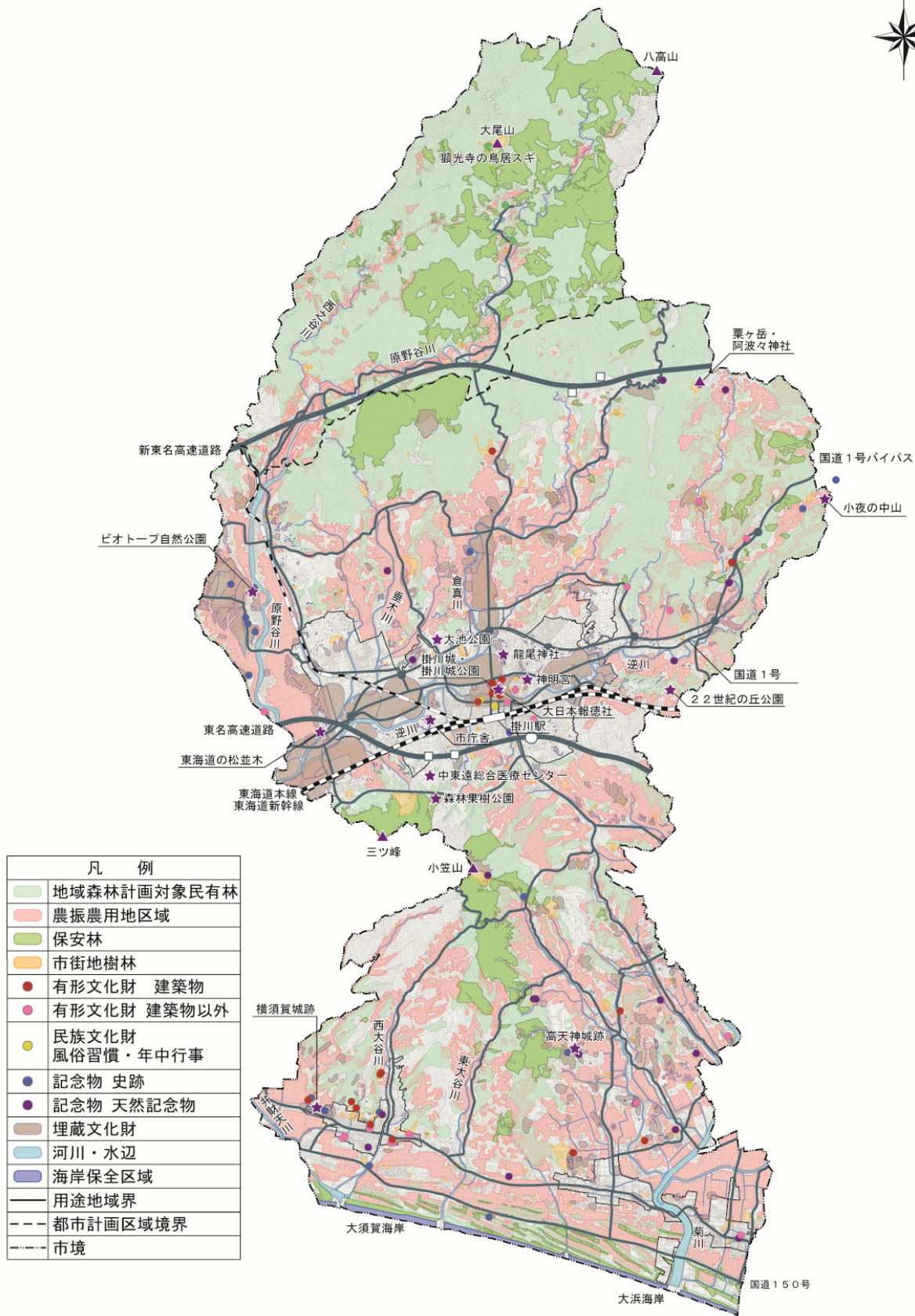


図 3-2-1 環境保全系統図

(2) レクリエーション系統

レクリエーション系統としては、以下に示す4つの視点別に対象となる主な緑を抽出することで解析・評価を行います。

表 3-2-2 レクリエーション系統緑地における評価

	評価の視点	対象となる主な緑の種類	掛川市における緑
レクリエーション系統	自然とのふれあいの場となる緑	<input type="checkbox"/> キャンプ場・ハイキングコース等	<input type="checkbox"/> 明ヶ島キャンプ場、ならこの里キャンプ場、大尾山ハイキングコースなど
		<input type="checkbox"/> 主要な河川	<input type="checkbox"/> 逆川、原野谷川、垂木川、倉真川
		<input type="checkbox"/> 自然を活かした公園	<input type="checkbox"/> 大池公園、大浜公園、森林果樹公園
		<input type="checkbox"/> 海洋性スポーツ・レクリエーション施設	<input type="checkbox"/> 弁財天海浜公園、大東マリーナなど
	身近なレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 住区基幹公園	<input type="checkbox"/> 掛川城公園、安養寺運動公園等の住区基幹公園
		<input type="checkbox"/> 良好なオープンスペース	<input type="checkbox"/> 児童遊園など
		<input type="checkbox"/> 小中高等学校グラウンド	<input type="checkbox"/> 一般開放している学校のグラウンド等 35ヶ所
		<input type="checkbox"/> 社寺境内地	<input type="checkbox"/> 龍尾神社、神明宮等の社寺境内地など
	広域的なレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 都市基幹公園	<input type="checkbox"/> 大池公園、22世紀の丘公園、掛川城公園
		<input type="checkbox"/> その他の公園	<input type="checkbox"/> 小笠山総合運動公園
		<input type="checkbox"/> 公園以外の交流施設	<input type="checkbox"/> 小夜の中山、高天神城跡、横須賀城跡 <input type="checkbox"/> 森林果樹公園、キウイフルーツカントリージャパン、加茂花菖蒲園、掛川花鳥園、つま恋、ならこの里、観光農園
	線的な緑のレクリエーション空間	<input type="checkbox"/> 主要な河川	<input type="checkbox"/> 逆川、原野谷川、垂木川、倉真川、菊川、弁財天川、西大谷川、東大谷川
		<input type="checkbox"/> サイクリングコース・マラソンコース	<input type="checkbox"/> 浜松御前崎自転車道、掛川新茶マラソンルート
		<input type="checkbox"/> 散策路	<input type="checkbox"/> 緑の精神回廊、市民の森、小夜の中山公園

対象となる主な緑の解析・評価

明ヶ島キャンプ場、ならこの里キャンプ場、大尾山ハイキングコース等や逆川、原野谷川等の主要河川は、自然とのふれあいの場となっている。

市街地内の公園緑地も身近に自然とふれあえる場として利用されている。

有効活用するための方策を検討すべき。

住区基幹公園や公共のオープンスペースは、市内各所に整備され、市民に親しまれる空間として機能している。
 一部の地域においては、身近なオープンスペースとして機能する住区基幹公園が不足している。

広域的なレクリエーション需要に応える緑地として、規模の大きな公園や各種観光スポットが市内各所に点在し、交流拠点となっている。
 水辺を活用したレクリエーション施設が少ない。

いくつかの河川が、山間部から市街地を流れて海に達しているが、コンクリート護岸等により、親水空間に乏しい。

線的に緑が連続し、自然の中でウォーキングやサイクリングを楽しむことができる空間がある。
 緑のネットワーク化を図る緑が不足している。

緑や水辺、歴史・文化等を楽しむことができる散策路がある。

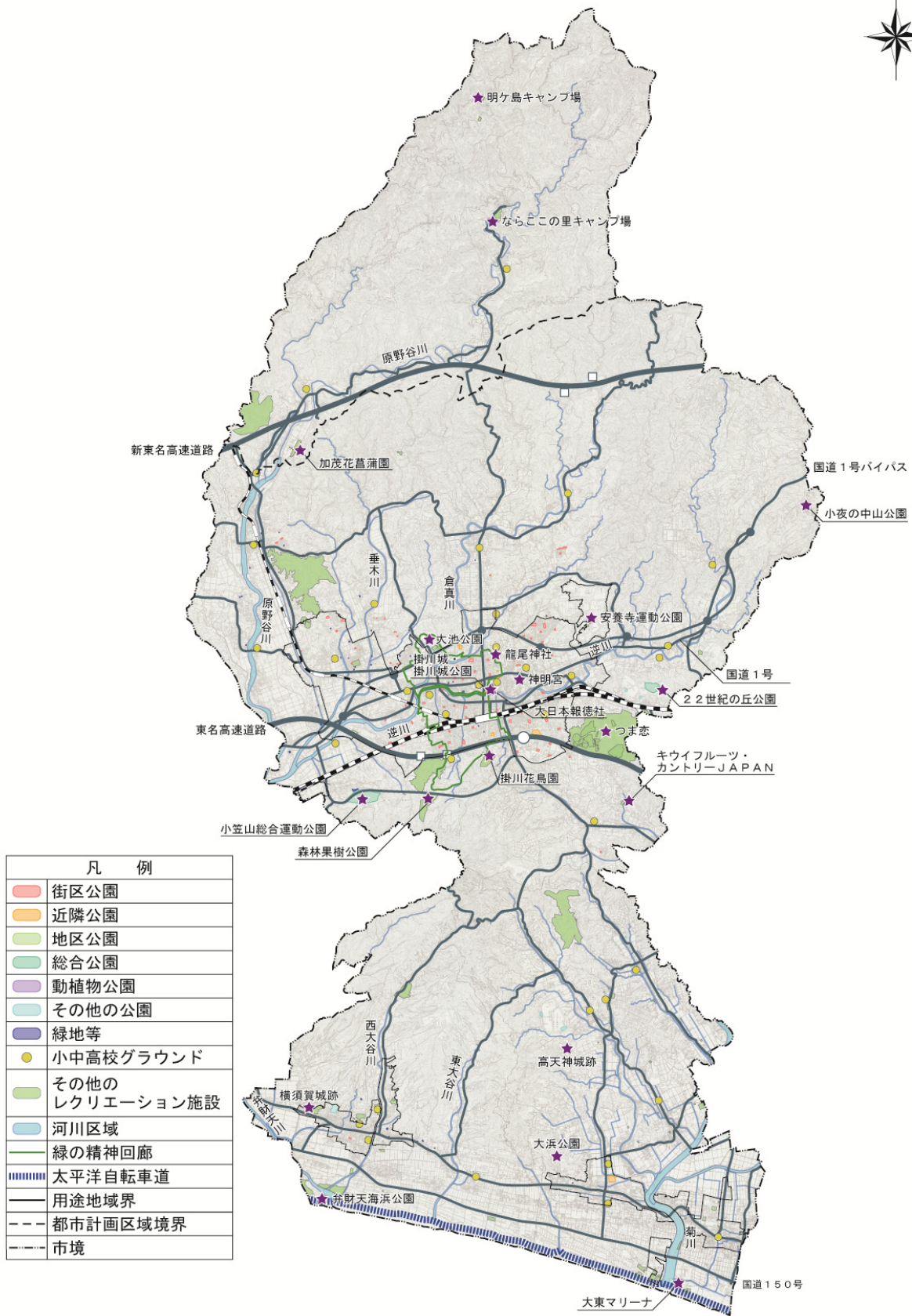


図 3-2-2 レクリエーション系統図

(3) 防災系統

防災系統としては、以下に示す4つの視点別に対象となる主な緑を抽出することで解析・評価を行います。

表 3-2-3 防災系統緑地における評価

評価の視点		対象となる主な緑の種類	掛川市における緑		
防災系統	自然災害を抑制する緑	土砂災害	<input type="checkbox"/> 山地の樹林地 <input type="checkbox"/> 市街地周辺の樹林地	<input type="checkbox"/> 市域全域に点在する急傾斜地崩壊危険区域、土石流危険区域、地すべり防止区域などの周辺の樹林地	
		水害	<input type="checkbox"/> 山地の樹林地 <input type="checkbox"/> 市街地周辺の水田・畑 <input type="checkbox"/> 調整池	<input type="checkbox"/> 北部の山地に広がる水源かん養保安林など <input type="checkbox"/> 丘陵地の茶畑、北部丘陵地の谷部に広がる谷田、南部の田園地帯など <input type="checkbox"/> 大池調整池、居沼池調整池、京徳池調整池など	
			塩害・強風被害	<input type="checkbox"/> 海岸線沿い樹林地	<input type="checkbox"/> 南部の海岸に沿って広がる樹林地(斜め海岸林)
			津波災害・高潮災害	<input type="checkbox"/> 海岸線沿い樹林地	<input type="checkbox"/> 南部の海岸に沿って広がる樹林地(斜め海岸林)
		人為災害を抑制する緑	<input type="checkbox"/> 市街地内の一団の緑 <input type="checkbox"/> 市街地の河川・ため池 <input type="checkbox"/> 豊かな街路樹 <input type="checkbox"/> 工場等の緩衝緑地	<input type="checkbox"/> 思惟の森、掛川駅南北広場、掛川城公園の樹叢、緑の精神回廊 <input type="checkbox"/> 逆川、倉真川等市街地内を流下する河川 <input type="checkbox"/> 八幡池、大池等の主なため池 <input type="checkbox"/> 駅前通り線、宮脇秋葉線など <input type="checkbox"/> エコポリス、新エコポリスなど	
	避難地として機能する緑		<input type="checkbox"/> 避難地 <input type="checkbox"/> 都市公園 <input type="checkbox"/> 社寺境内樹林地	<input type="checkbox"/> 小・中学校グラウンド等の避難地 <input type="checkbox"/> 掛川城公園、大池公園、22世紀の丘公園等の都市公園 <input type="checkbox"/> 龍尾神社、神明宮等の社寺境内樹林地他	
			避難路として機能する緑	<input type="checkbox"/> 街路樹のある幹線道路 <input type="checkbox"/> 住宅の生垣	<input type="checkbox"/> ケヤキが植栽されている駅前通り線、シラカシ、クスノキ、ケヤキなどが植栽されている駅南本通り線など <input type="checkbox"/> 市街地内の住宅の生垣

対象となる主な緑の解析・評価

- 山地や丘陵部の樹林地が、土砂の流出防止に役立っている。
- 管理の放棄された竹林の拡大により、土砂災害の危険性が高まっている。

- 北部には豊かな樹林地が広がり、水源かん養機能を果たしている。
- 森林や里山の荒廃による、水源かん養機能の低下が懸念される。

- 低地部の調整池や水田が、集中豪雨等による都市型災害の防止に役立っている。

- 地域特有の強風(遠州の空っ風)の風向を考えて、海岸線に対して斜めに造成されている海岸沿いの防風林が、地域特有の強風を分散させ、弱くさせるとともに、海岸の砂が飛散するのを防いで、後背地の農地利用を可能にしている。
- 松の立ち枯れが発生している。

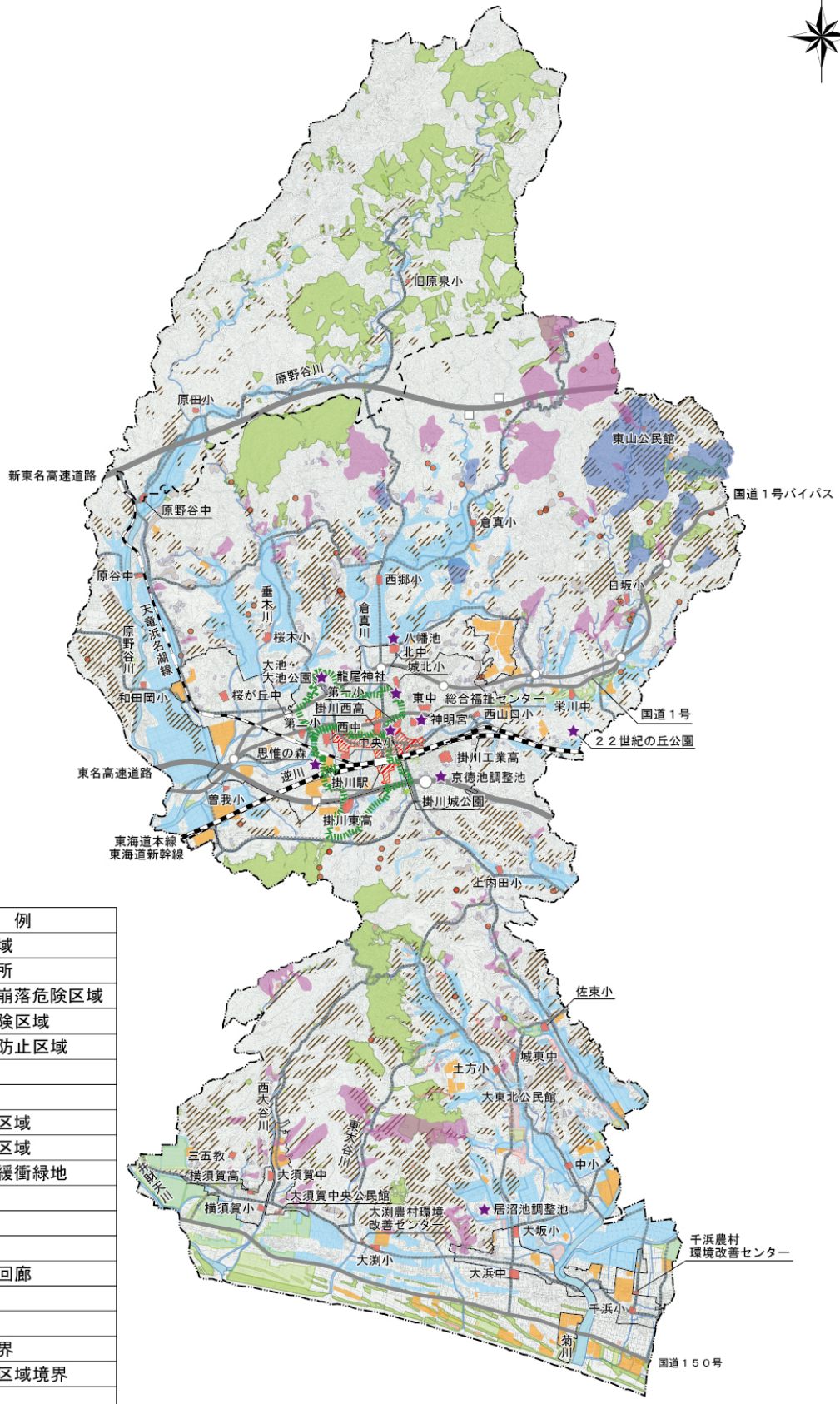
- 海岸沿いの松林等が、近い将来の発生が懸念される津波による被害を軽減する効果がある。
- 松の立ち枯れが発生するとともに、海岸砂丘の後退によって、津波や波浪への耐久性の低下が懸念される。
- 近年、植樹が進められており、適切な維持管理によって今後の早い生育を促すことが必要である。

- 市街地内の一団の緑や河川・ため池、道路植栽は、火災などの被害を軽減する緩衝帯としての機能を有している。
- 樹林地の都市的土地利用への転換により、市街地周辺の緩衝帯となる緑地が失われつつある。
- 市街地内においては、延焼防止・防火帯として機能する連続した緑が希薄な地区がある。

- エコポリスをはじめとする工業団地には、多くの緑が確保されており、騒音や大気汚染、延焼の防止に効果がある。

- 市街地内にあっては、避難地のほか、都市公園や社寺境内樹林地など周りを樹林に覆われた場所は、災害時の一時的な避難場所として、避難地を補完する機能を持つ緑地である。

- 植栽の施された主要な幹線道路や生垣のある住宅地は、災害時の避難経路(動線)として機能する緑地として位置づけられる。
- 避難動線となる緑の軸が希薄である。



凡 例	
	準防火地域
	広域避難所
	急傾斜地崩落危険区域
	土石流危険区域
	地すべり防止区域
	がけ崩れ
	がけ崩れ
	内水被害区域
	浸水被害区域
	工業地の緩衝緑地
	茶畑
	水田
	保安林
	緑の精神回廊
	道路騒音
	鉄道騒音
	用途地域界
	都市計画区域境界
	市境

図 3-2-3 防災系統図

(4) 景観構成系統

景観構成系統としては、以下に示す5つの視点別に対象となる主な緑を抽出することで解析・評価を行います。

表 3-2-4 景観構成系統緑地における評価

	評価の視点	対象となる主な緑の種類	掛川市における緑
景観構成系統	掛川の代表的な緑の景観	<input type="checkbox"/> 掛川の代表的な緑	<input type="checkbox"/> 八高山、大尾山、粟ヶ岳、小笠山 <input type="checkbox"/> 南部の海岸に沿って広がる樹林地(斜め海岸林)
		<input type="checkbox"/> 掛川の代表的な水辺	<input type="checkbox"/> 大浜海岸、大須賀海岸、逆川、原野谷川、垂木川、倉真川、菊川、弁財天川、西大谷川、東大谷川、市内各所のため池
		<input type="checkbox"/> 掛川の代表的な農地	<input type="checkbox"/> 市域中央部の市街地周辺、国道150号以北の平地部の谷田、国道150号以南の平地部の水田、粟ヶ岳や東山の茶草場農地、西郷や上内田の茶畑など
	地区・住区レベルの良好な緑の景観	<input type="checkbox"/> 市の中心部の緑と水辺	<input type="checkbox"/> 緑の精神回廊、JR掛川駅南北広場の高木及び周辺の街路樹、逆川など
		<input type="checkbox"/> 地区・住区の良好な緑	<input type="checkbox"/> 公園、街路樹、住宅の生垣、工場地の植栽
		<input type="checkbox"/> 地区・住区の水辺	<input type="checkbox"/> 太田川水系、菊川水系、弁財天川水系、竜今寺川水系、東大谷川水系などの支流、大池、桜木池、西大谷池、東大谷池、田ヶ池、居沼池、中新井池など
		<input type="checkbox"/> 地区・住区の歴史を表す緑	<input type="checkbox"/> 天然記念物、保存樹木、保存樹林、社寺境内の樹林地
	優れた景観の眺望点	<input type="checkbox"/> 眺望点となる山・山頂	<input type="checkbox"/> 粟ヶ岳、小笠山、八高山、高天神山
		<input type="checkbox"/> 眺望点となる公園	<input type="checkbox"/> 掛川城公園(掛川城天守閣)、横須賀城跡公園、小笠山総合運動公園、富士見台公園、大浜公園(展望台)、弁財天海浜公園(展望台)、粟ヶ岳茶文字のビューポイントなど
	ランドマークとなる緑	<input type="checkbox"/> ランドマークとなる緑	<input type="checkbox"/> 八高山、大尾山、小笠山、粟ヶ岳
		<input type="checkbox"/> ランドマークとなる樹木	<input type="checkbox"/> 住宅地、集落地内の高木、社寺の境内地内の高木・巨木
	四季を感じる緑の景観	<input type="checkbox"/> 山地・丘陵地	<input type="checkbox"/> 粟ヶ岳(桜)、大尾山・顕光寺付近(桜)、小笠山(紅葉)など
		<input type="checkbox"/> 都市公園の植栽地	<input type="checkbox"/> 大浜公園(桜)、小夜の中山公園(桜)、桜木池公園(桜)など
		<input type="checkbox"/> 寺社仏閣・史跡	<input type="checkbox"/> 横須賀城跡(桜、梅)、本勝寺(あじさい)、小笠池・小笠神社周辺(紅葉・ツツジ)、龍尾神社(梅)、高天神城跡(梅)、掛川城公園(桜)など
		<input type="checkbox"/> 公共公益施設の植栽地	<input type="checkbox"/> 文化会館「シオーネ」西側(菜の花、ひまわり、コスモス)など
<input type="checkbox"/> ため池、その他		<input type="checkbox"/> 千浜東地区(コスモス)、加茂花菖蒲園(菖蒲)、中新井池(オニバス)など <input type="checkbox"/> 河川沿いの桜、菜の花、彼岸花、ススキなど	

対象となる主な緑の解析・評価

大尾山、粟ヶ岳、小笠山等の山地・丘陵地は、貴重な緑が豊富であり、掛川の景観を代表する緑である。
市内各所にみられる特徴的な緑や水辺は、本市の歴史や文化性を象徴し、都市を代表する景観要素として重要なものとなっている。
南部の遠州灘海岸沿いでは、海岸林が海岸線に対し斜めに造成され、国内唯一の大変珍しい景観になっている。

茶草場農法地や南部の水田(とうもろこし)、山裾の茶畑、海岸部の砂地畑など、地域特有の景観が残っている。

各地区の景観を構成する緑地は、市内各所に点在しているが、その中でも歴史的・文化的な景観要素が多くを占めている。
身近なところに地区の良好な緑地や水辺が残されている。
近年、山裾周辺において都市的な土地利用への転換が進みつつあり、良好な景観資源が失われつつある。
地区の良好な緑や水辺の維持・管理方法が課題である。

市街地からの眺望点として掛川城天守閣が、外郭からの眺望点としては粟ヶ岳山頂、富士見台霊園が重要な緑地となっている。
市南部の眺望点として、大浜公園や横須賀城跡公園が重要な緑地となっている。

ランドマークとなる緑として、山地・丘陵地や地区の高木・巨木がある。
都市レベルでのランドマークは豊富であるが、平地部(市西部や市南部)にランドマークとなる緑が不足している。
住宅地や集落地にランドマークとなる樹木があるが、開発行為や不十分な管理によって、喪失するケースがある。

市内各所に四季を感じることのできる景観が残されている。

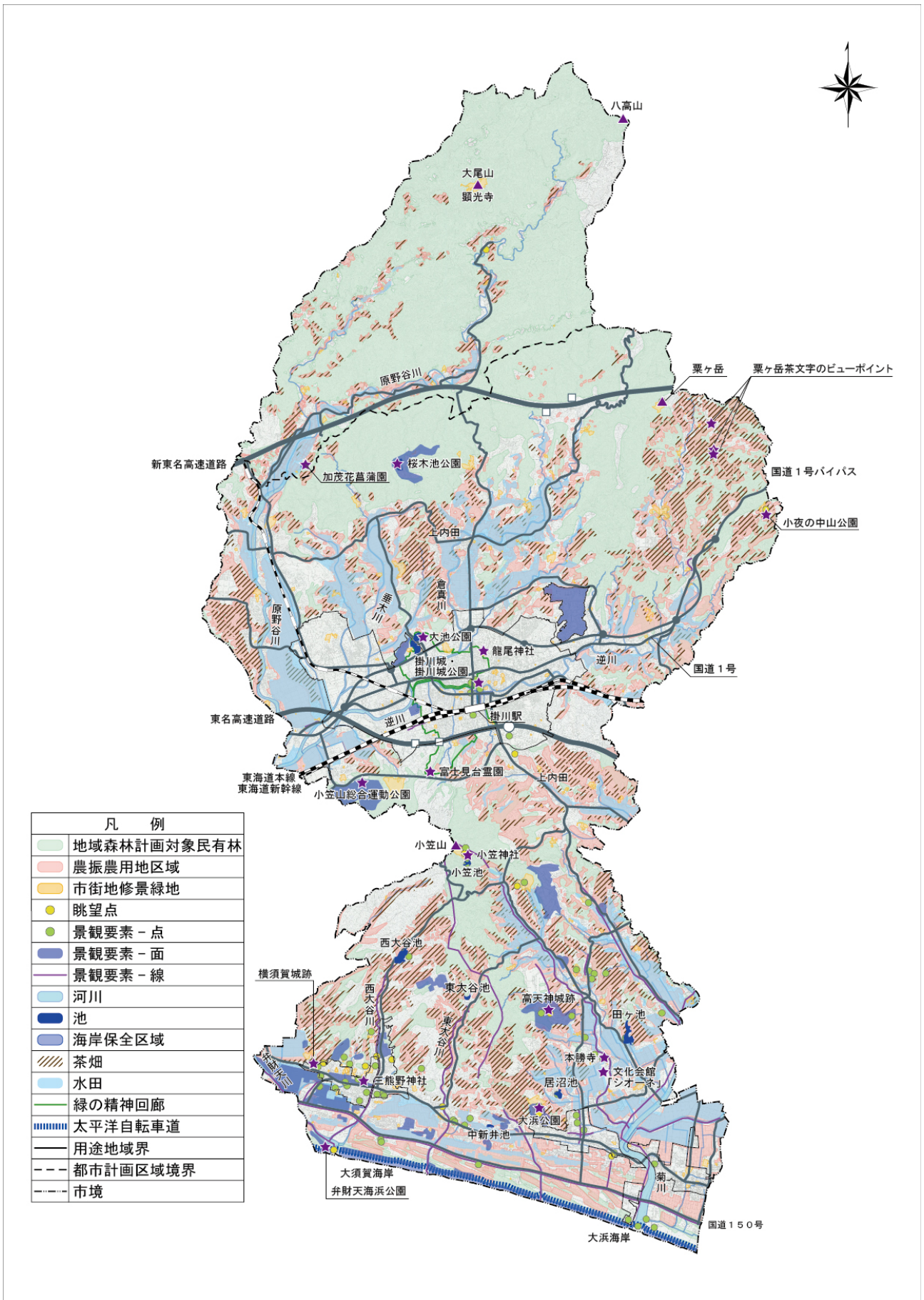


図 3-2-4 景観構成系統図

3-3 問題点・課題の整理

4 系統別及び総合的な視点から行ってきた緑地の解析・評価結果を踏まえ、掛川市の現況の緑にみられる問題点や課題を整理します。

(1) 本市の総合的なまちづくりの観点からの課題

① 本市の緑と水辺の保全、創出、活用のあり方を示す総合的なビジョンが求められます

緑と水辺の保全、創出、活用を推進していくためには、市民、事業者、行政が協働で必要な活動を進めることはもとより、まずは行政が、緑と水辺の将来ビジョンを明確に理解するとともに、先導的に施策展開を進めることが必要です。さらに、庁内の関係課が将来ビジョンの達成のための役割を認識することが求められます。

このようなことから、本計画は、本市の緑と水辺の保全、創出、活用に係る施策展開の方向性を示す総合的なビジョンとすることが求められます。

② 文化の香り高い市域の形成に寄与する計画が求められます

本市においては、ため池谷田文化や茶草場農法など、緑と水辺に係る独特の文化が継承されています。また、全市生涯学習公園化構想など、特徴的な緑化施策も展開されてきており、これらが要因となり、現在の良好な環境の形成に至っています。

このような背景を踏まえ、単に数値的に緑地や都市公園の面積確保を算出する計画ではなく、本市の美しい自然の保全と活用や本市固有の緑と水辺に係る文化の位置付けなど、掛川の豊かな自然や伝統文化の将来像を的確に示すことが求められます。

③ 環境と共生したまちづくりに寄与する計画が求められます

近年、掛川市では、市民・事業者・行政が連携して、環境保全政策に積極的に取り組んでいます。掛川市環境基本計画で「未来に伝える豊かな地球環境を大切にすまち かけがわ」を本市の環境像と掲げ、これを実現するために、地球温暖化防止、循環型社会の構築、自然環境の保全等の施策を展開しており、その結果、環境に関する市民や事業者の意識も高まり、これらの活動に取り組むNPOや市民団体の発足にも繋がります。

このような状況を踏まえて、小笠山・粟ヶ岳、遠州灘海岸等の自然環境保全、河川の水質や小動物の保全、市街地内の環境向上のための緑化の推進、再生可能エネルギーとしてのバイオマスの活用等、環境日本一を目指す掛川市として相応しい、緑と水辺の保全、創出、活用のあり方を明確にすることが求められます。

④ 既存ストックを活用して緑を確保することが求められます

全国的な傾向と同様に、本市においても、人口減少、少子高齢化の進行が予測されており、今後の都市像として、集約型都市構造への転換が求められています。また、これにあわせて、都市経営のあり方についても、無駄のない社会資本整備の推進や維持管理費の低減策の推進等が求められています。

このような情勢を踏まえ、現行の公園・緑地整備構想を見直すとともに、水辺空間の緑地としての位置付け、既存の公共空間の緑化の推進、民地の緑化の誘導など、既存ストックを活用した緑地の確保のあり方を明確にすることが求められています。さらに、集約型都市構造への転換と維持管理費の低減を想定した、不要な公共緑地や街路樹の見直しなどの方向性を明確にすることなどにより、効率的な都市経営に資する計画づくりが求められます。

⑤ 市民・事業者・行政の協働による緑地保全、緑化のあり方を示すことが求められます

本市では「生涯学習」をテーマに住民参加のもと、各種施策・運動を実施してきましたが、緑豊かで快適な生活空間を形成する緑の将来像を実現させるためには、住民の緑化に対する意識の高揚を図り、市民生活の中に高いレベルで根付かせることが重要であり、市民が自らの手で将来の掛川を創り上げていくことができる仕組みづくりが重要です。

このために、これまでの施策同様に、市民参加を基本としたまちづくりに関する方針を定め、市民の交流並びに市民意識の醸成を図りつつ、市民・事業者・行政の協働による緑地保全、緑化のあり方について示すことが求められています。

(2) 現況の緑と水辺の構成要素に関する課題

① 市街地の背後に広がる森林の保全と整備が求められます

北部に広がる八高山、大尾山、栗ヶ岳などの山地や西部に広がる小笠山などの山麓樹林帯は、都市の骨格を形成し、市街地の背景をなすランドマークとして、自然環境及び景観の保全を図ります。また、これらは、水源かん養や土砂災害防止等の機能も備えるため、掛川市全域に与える影響が大きく、適切な保全及び整備が重要です。さらに、キャンプ場やハイキングコースなどのレクリエーション施設などが整備されており、活用方策の検討が求められます。

② 遠州灘海岸沿いに広がる海岸防災林の保全と再生が求められます

南部の遠州灘海岸沿いに広がる森林は、クロマツを中心に海岸防災林として整備されてきました。津波や高潮による被害の軽減をはじめ、地域特有の季節風（遠州の空っ風）を弱める働き、砂の飛散防止などの効果があります。

しかし、近年、海岸浸食の進行や松くい虫による被害の拡大、不十分な維持管理によって海岸沿いの森林機能の低下が懸念されることから、これらの森林を適切に保全するとともに、再生することが求められます。

③ 市街地に接する水辺の保全と活用が求められます

市街地を流れる逆川やその周辺を流れる原野谷川など、市内にはいくつもの中小河川が流れるとともに、南部には県立自然公園に指定されている遠州灘海岸があります。これらの河川や海岸は都市の骨格を形成するとともに、野鳥や水生生物の貴重な生息地となっており、水辺の自然環境の保全が求められます。

また、逆川沿いに整備されている緑の精神回廊や海岸沿いの浜松御前崎自転車道など、水辺の近くに緑のネットワークが整備されており、レクリエーション空間として景観の保全が求められます。

さらに、市内には農業用に使われてきた 240 を超えるため池があり、ため池谷田文化と呼ばれるように、古くから市民に親しまれてきた固有の資源です。掛川の歴史を後世に伝える重要な緑と水辺として、今後も保全・活用することが求められます。

④ 農地の保全と活用が求められます

掛川を代表する農業生産地である茶畑は、市内各所に広がっており、「茶どころ掛川」を感じることでできる緑として保全していく必要があります。特に、粟ヶ岳周辺の茶草場農法地は掛川特有の景観であり、優先して保全していくことが重要です。

その他にも、掛川地域の中央部に広がる農地や南部に広がる「とうもん」と呼ばれる一団の農地、あるいは丘陵地際に介在する谷田、海岸付近の砂地畑は、地域特有の景観形成や生産の場としての機能の他、貯水機能や身近なオープンスペースなど、多面的な機能を有しており、適切に維持管理する必要があります。

⑤ 地域の個性を形成する緑地の保全・活用が求められます

東海道の松並木、顕光寺の鳥居スギ等の天然記念物、保存樹木、寺社境内地の樹林地など、市内には歴史的・文化的に価値の高い緑が点在しており、これらを将来にわたって保存していくことが重要です。近年、住宅の建て替えや駐車場の整備によって伐採される例もあるため、移植等も含めた保存方法を検討することが必要です。

⑥ 新規公園に代わる緑地の確保が求められます

市街地内で公園の少ない地域においては、必要性や実現可能性の高いものから段階的に整備していきます。

しかし、人口減少、少子高齢化、あるいは近年の財政状況を踏まえると、新規公園整備のみに依存することはできないため、緑地の公園的活用や公園緑地の再整備などを検討し、新たな公園整備に代わる緑地の確保方策を検討することが求められます。

⑦ 老朽化が進む既存公園の再整備が求められます

今後、老朽化する公園が増えていくことが予想されるため、バリアフリーやユニバーサルデザイン、遊具の安全性確保、防災機能向上等に考慮して既存の公園を再整備する事が重要です。

⑧ 公共空間の緑化推進が求められます

本市の公共施設では、掛川駅南北広場や市庁舎、中東遠総合医療センター等、積極的な緑化が行われてきました。今後も公共施設の新設や改修の際に緑化を進め、市民の緑化意識を高めるとともに、緑化モデルとして位置づけることが重要です。

⑨ 民有地の緑化の促進が求められます

市街地内の緑化を進めるためには、民有地内の緑化が不可欠です。緑化に関する情報発信や学習機会の提供の強化を図りつつ、市民や事業者の緑と水辺に関する意識の向上を図りつつ、地域ぐるみで緑化を推し進めることが重要です。

また、工場等では、騒音や臭気等の緩衝、周辺の景観との調和等のために、外縁部や駐車場を中心に緑化を進めることが必要です。